

環境と人にやさしい百貨店を目指す取り組み

J.フロント リテイリングは、21世紀が目指す「持続可能な社会」の形成に向けて、お客様、お取引先の皆様とともに、地球環境の保全に取り組んでいます。主力の百貨店事業を営む大丸松坂屋百貨店はISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用し、環境負荷の継続的な削減に努めています。

J.フロント リテイリンググループ 環境方針

私たちJ.フロント リテイリンググループは、かけがえのない地球環境を次世代へ残していくための自らの役割と責任を認識し、お客様・お取引先様・地域の皆様とともに「持続可能な社会の実現」に向けた「環境にやさしい企業経営」を積極的に推進します。

1.環境に及ぼす影響とその原因を認識し、グループ各社の事業活動を通じて環境保全活動を推進する体制・仕組みを構築し、環境負荷の低減に積極的に取り組みます。

- ①資源・エネルギーの有効活用
- ②CO²排出量の削減
- ③廃棄物の削減と再資源化
- ④環境にやさしい商品・サービス・情報の提供
- ⑤お客様、お取引先様や地域の皆様と取り組む環境保全活動の推進

2.環境に関する法令、条例及び協定などの要求事項を順守します。

3.教育・啓発活動を通じて環境保全に対する意識の向上をはかり、グループ内で働く一人ひとりが環境課題に自ら取り組む基盤を強化します。

4.この環境方針は、グループ各社で働くすべての人に周知徹底するとともに、社外にも公開します。

■包装資材の削減

大丸、松坂屋各店では、無駄のない適切な包装を推進するために、スマートラッピングマニュアルに基づく研修を繰り返し実施しています。スマートラッピングとは、お客様に用途に応じて包装を選んでいただくことで、紙袋やレジ袋、包装紙の削減につなげることを目的とした、日本百貨店協会が推進するキャンペーンのひとつです。

「オリジナルエコバッグ」の販売

大丸、松坂屋各店では、省資源化の推進とマイバッグの利用によるゴミ削減のため、オリジナルエコバッグを販売しています。2012年度は、より多くのお客様にお持ちいただけるよう、デザインも一新。このバッグには1枚につき50円の「カーボンオフセット」を付加しています。インドにおける風力発電事業で得た排出権を取得したもので、これにより1枚当たり約14kgのCO²削減を見込んでいます。



海外著名ブランドでも活躍中のテキスタイルデザイナー 藤阪克二氏/SOU・SOUデザインによる 大丸松坂屋百貨店「オリジナルエコバッグ」

■エネルギー使用量の削減

大丸、松坂屋各店では、地球温暖化を防止するため、既存照明のLED化をはじめ、空調機器、エレベーターやエスカレーターなどのインバーター制御化、空調熱源の高効率化など、エネルギー使用量の削減につながる設備更新を推進しています。また、照明や空調温度をこまめに管理するとともに、日本百貨店協会が進める「夏場の店内冷房温度の緩和」「ライトダウンキャンペーン」などの様々な活動へも参加し、従業員全員で省エネに取り組んでいます。

店舗照明のLED化を推進

大丸、松坂屋各店では、既存照明をLED照明へ変更することにより使用電力及びCO²の削減に努めています。LED照明はハロゲンライト等と比較して発熱量が大幅に少ないため、店内冷房の効率化にも大きく寄与します。

2011年4月19日増床グランドオープンした大丸梅田店は、全フロアの天井照明器具約35,000灯をLED化しました。さらに、後方部門等の照明も人感センサーつきの高効率Hfタイプ蛍光灯に変更。その他の店舗でも、2011年度中に松坂屋上野店で10,000灯、大丸東京店9,000灯、松坂屋名古屋店7,000灯など、全店天井照明の19%に相当する85,000灯をLED照明に切替を済ませており、従来に比べて全店の電力使用量で年間1,200万kwhの削減効果を見込んでいます。

今後も、各地区の電力会社の需給バランスおよび政府による節電要請に対応して、大丸、松坂屋の各店舗へLED照明導入を順次拡大し、電力使用量の削減に努めます。



環境省「平成22年省エネ照明デザインアワード」でグランプリを受賞(梅田店)

■廃棄物処分量の削減と再資源化

大丸、松坂屋各店では、廃棄物を削減し、再資源化を推進するため、ゴミの分別を徹底しています。梱包容器の減量として、折りたたみコンテナや百貨店統一ハンガーなど再利用システムを推進して、廃棄物の総量抑制に努めています。

また、各店の社員食堂では、割り箸ではなく洗って何度でも使える箸を使用しています。

食品廃棄物の減量については、大丸東京店、京都店、神戸店、札幌店、松坂屋上野店で「生ゴミ処理機」を設置しているほか、大丸心齋橋店、梅田店、札幌店、松坂屋名古屋店、豊田店は外部の処理業者に委託し、飼料や肥料として活用できるよう再生しています。食品廃棄物はすべて計量し、排出部署へ毎月フィードバックすることにより削減意識を高めています。

■ 環境にやさしいライフスタイルの提案

大丸、松坂屋各店では、環境活動の重点項目として、生活の中にスマートに「エコ」を取り入れるための提案に努めています。

2011年3月に発生した東日本大震災以後、被災地支援に向けた復興アクションや原発事故に端を発する電力使用量制限令に対応した節電生活応援フェアなど、社会情勢の変化やお客様のご要望にお応えした商品提案やイベントの展開にも積極的に取り組んでいます。

暑い夏を快適に過ごす —

「世代別最新クールビズスタイル」を提案

大丸、松坂屋各店では2011年の夏、快適かつセンス良く着こなせる進化したクールビズスタイル、「ウルトラクールビズ」を提案しました。環境省が提唱する「スーパークールビズ」のキックオフイベント「SUPER COOL BIZ 2011」に参加し、当社が提案する「ウルトラクールビズ」スタイルを紹介。さらに、当社の役員・従業員がモデルとなり、涼しく過ごせる機能性とビジネスシーンにも対応できるファッション性を兼ね備えた世代別「ウルトラクールビズ」スタイルを、ホームページや新聞広告で提案しました。

2012年の夏は、さらに進化させた「かっこよさ」と「おしゃれ感」のあるスタイルを「スマートクールビズ」として提案しています。



環境と社会への配慮をテーマにした "make a smile PROJECT"を実施

大丸神戸店では、2011年8月31日より「エシカル消費」にフォーカスしたイベントをスタート。「make a smile PROJECT」と銘打ち、オーガニックアイテムを中心とした環境にやさしい商品の提供や、開発途上国における環境保全、産業育成や雇用創出を支援するフェアトレード商品など社会への貢献につながるモノ・コトの提供を通じて、「誰かがhappy」になることを志向した取り組みを展開。テレビ、新聞など多くのマスメディアで紹介されるなど、大きな反響をいただきました。

■ お客様にやさしく快適な店舗づくり

定期的な防災訓練実施および緊急地震速報システム導入

大丸、松坂屋各店では自衛消防隊を組織し、通報・消火とおお客様の避難誘導を迅速に行えるよう店舗の勤務者全員参加の訓練を定期的に行っています。また、震度5弱以上の地震発生時には緊急地震速報を受信し、リアルタイムで自動的に館内放送を行えるシステムを導入しています。緊急時の行動マニュアルに基づく避難誘導訓練を繰り返し実施し、いざというときにも反射的に最適な行動がとれるよう徹底しています。

2011年3月11日の東日本大震災の地震発生時においても、首都圏各店では訓練に基づき、迅速かつ安全にお客様の避難・誘導を行うことができました。



大丸東京店の防災センターでは各種モニターで集中コントロールし全館の安全確認を行っています。

AED(自動体外式除細動器)を全店に設置

大丸※、松坂屋全店にはAEDを設置するとともに、緊急時の初期対応ができるように普通救命講習会を各店で実施しています。

※テナントとして入店している一部の店舗では、ビルオーナー会社との共用を含む。

バリアフリーな店づくりの推進

大丸梅田店では、2011年4月の増床グランドオープンを機にバリアフリーな店づくりを推進しました。

【お子様連れのお客様に】

- ベビーカーを1階東案内所と10階ベビーサロン(セルフ式)にて貸し出し
- 授乳室、おむつ自販機、飲料自販機、コインリターン式のベビーカーがある「ベビーサロン」を10階(東)にご用意
- 赤ちゃんを安心して座らせておけるホルダー付きトイレを各階婦人・紳士用化粧室に設置
- ベビーカーと入れるトイレを地2階・2階・5階・6階・8階～13階の婦人用化粧室、10階紳士用化粧室に設置

【お身体の不自由な方やご高齢のお客様に】

- 車椅子でご利用できる化粧室を3階・9階・12階・14階・15階に設置(オストメイト対応3階・14階の2箇所)
- ユニバーサル対応の試着室2箇所(7階/フォーマルサロン・9階/紳士服出来上がり品お渡し場)

社会貢献活動への取り組み

J.フロント リテイリングは、広く社会に貢献する企業集団として、大震災への支援活動をはじめ、地球環境保全や深刻な飢餓・貧困に苦しむ地域への支援、安全・健康な生活を営むための啓発などを目的に、チャリティバザールやイベントへの参加を積極的に行っています。

■地域の活性化・支援活動

大丸、松坂屋各店では、地域に密着した百貨店として、地域の皆様や行政との協力のもと、人々が集まる楽しく美しい街づくりに積極的参加するとともに、お客様や地域の皆様にも参画していただける環境への取り組みを行っています。

主な地域イベントへの参加

大丸

- 札幌店「札幌雪まつり」
「YOSAKOIソーラン祭り」
- 京都店「祇園祭」
- 神戸店「神戸ルミナリエ」
「モトマチ イーストジャズピクニック」
- 博多大丸天神店「博多祇園山笠」
- 下関大丸「しものせき海峡まつり」

松坂屋

- 名古屋店「名古屋まつり」
「ど真ん中祭り」
- 上野店
「五條天神社例大祭」
- 静岡店「静岡まつり」
(季節ごとのイベント参加)
- 高槻店「高槻ジャズストリート」

環境学習・販売体験



大丸、松坂屋各店では、春の連休や夏休みなどに地元の小・中学生の生徒を受け入れ、店舗での環境への取り組みの紹介やお仕事体験などを通じ、総合学習のお手伝いを行っています。

バングラデッシュのバロパイカ村にポンプ式井戸が完成

大丸梅田店では、2009年の4月から5月および10月から11月にかけて、レディス、メンズ、子供などのファッションブランドとコラボレーションしたエコチャリティタンブラーを販売し、その売上金約729千円を、安全な水の供給のためにアジア各地で井戸を建設し、自立した生活の実現にむけた支援を行っている(社)アジア協会アジア友の会を通じてバングラデッシュの井戸建設に寄付いたしました。

1990年代半ばより、地下水の汚染による健康被害が社会問題化しているバングラデッシュですが、この度、3,400人が暮らすポリシャル県アガイルファラ郡ラトナプール地区バロパイカ村において深さ約250mの井戸が完成したとの連絡をいただきました。この井戸から汲み出される安全な水が、村人たちの健康維持の一助となることを願っています。



■ピンクリボン運動(乳がん啓発活動)への支援

ピンクリボン運動は、乳がん検診の正しい知識を広め、早期受診を推進することなどを目的として行われる啓発活動です。JFRカード(株)では、2010年4月より「ピンクリボン運動」に協賛し、お客様からの募金と「さくらパンダカード」の会員数およびピンクリボン強化月間(10月)のご利用金額に応じた一定割合をNPO法人「J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)」に寄付して活動を支援しています。



さくらパンダが「ピンクリボン運動」の募金活動に参加(大丸心齋橋店)

大丸神戸店「ピンクリボンキャンペーンin大丸神戸店」

大丸神戸店では、2011年10月1日~31日の期間、8回目を迎える神戸市主催の「ピンクリボンフェスティバル」に賛同し、「ピンクリボン・ネイルアートコレクション」の店内展示や、地元のクリニックの協力によるセミナー開催など、乳がん検診の重要性や受診促進などの啓発活動を実施しました。

松坂屋名古屋店

「ピンクリボンスマイルウォーク名古屋応援キャンペーン」

松坂屋名古屋店では、2011年10月8日に名古屋で初めて開催された「ピンクリボンフェスティバル」のメインイベント「ピンクリボンスマイルウォーク名古屋」に協賛しました。

博多大丸「ピンクリボン運動」と「ティール&ホワイトリボン」の支援活動を推進

博多大丸は、3月8日をミモザの日、毎月8日を女性感謝デーと設定して女性への敬愛の意をこめて様々なイベントやサービスを実施。「ピンクリボン運動」の支援に加えて、2011年3月より「ティール&ホワイトリボン」(子宮頸がん予防の啓発キャンペーン)への支援活動も実施しています。

■「ペットボトルキャップを集めて、世界の子どもたちにワクチンを届けよう!」の活動

大丸、松坂屋各店では、店頭及び従業員施設に回収BOXを設置し、ペットボトルのキャップを回収しています。

回収したキャップは、NPO法人「Reライフスタイル」を通じてリサイクル業者に引き取られ、その対価を認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」に全額寄付し、子どもたちにワクチンが届けられます。

この取り組みは、2009年11月から大丸、松坂屋全店での取り組みをスタートし、お客様から多くのご協力をいただいています。2012年3月までの累計回収数は、2,747万個に達し、ポリオワクチンに換算して累計50,000名分を超えることとなりました。



■東日本大震災への支援活動

募金支援

2011年、大丸、松坂屋、ピーコックストア各店舗では募金活動を実施し、当社グループの従業員、お取引先様勤務員からの募金とあわせて約3,800万円を日本赤十字社へ寄付しました。

当社グループから、日本赤十字社他へ3,000万円及び東北物産展などで交流のある宮城県、岩手県、福島県、青森県に各100万円の義援金をお送りしました。

緊急物資支援

2011年3月の震災発生後、速やかに毛布1,000枚、マスク20万枚、簡易トイレ、ラジオをNGO団体「ピースウィンズ・ジャパン」を通じて岩手県大船渡市にお届けしました。その後各県の対策本部と連絡を取りながらその時点で必要とされる物資として、マスク143万枚を岩手県に、食品、日用品など合計約8万点を宮城県、岩手県の各受け入れ窓口へ順次お届けしました。

妊産婦の方々への物資支援

2011年5月には、被災地で活動するNGO団体「ジョイセフ」からの支援要請を受け、マタニティ用品1,500点および赤ちゃん用の飲料水1,200本を被災地までお届けし、現地の助産師会等を通じて妊産婦の方々にお渡ししました。

震災被災地応援フェア

2011年6月には、松坂屋上野店の食品催事において「がんばろう東北応援コーナー」を設置し、津波で倉庫もろとも流され土砂に埋もれた缶詰を、食糧難に直面した被災者の方々に提供したことで「希望の缶詰」と呼ばれるようになった「木の屋石巻水産」の缶詰を用意しました。泥にまみれた缶詰をなんとか販売しようと現地で協力する仕入担当者の姿がTVニュースで取り上げられたこともあって、「希望の缶詰め」をお求めに多くのお客様がご来店になり、約8,000個を販売しました。



大丸松坂屋百貨店の従業員が災害救援ボランティアに参加

大丸松坂屋百貨店は、ボランティア休暇制度を新設し、東日本大震災の被災地でのボランティア活動を積極的に支援しています。この制度を利用した従業員が被災家屋の清掃などの支援活動を行っています。

"がんばろう東日本!応援ラッピングツール(義援金付き)"を販売

大丸東京店では、2011年4月27日から、「応援ラッピングツール」を販売し、その売上の一部として135,000円を日本赤十字社を通じて被災地に寄付する支援活動を実施しました。震災以降、被災地のために何か役立つことがしたいという社会貢献意識が高まり、義援金付きであることを理由に、多くのお客様にご協力いただきました。

■チャリティバザール

「JCV子どもの笑顔プロジェクト」(Kids Smile Project)との連携

認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会 (JCV)」は、ワクチン支援活動に加え、震災において被災し傷を負った子どもたちの心を癒し、できるだけ多くの子どもたちの笑顔を取り戻すことを目的に「子どもたちの笑顔」を生み出す活動「JCV子どもの笑顔プロジェクト (Kids Smile Project)」を実施しています。

大丸松坂屋百貨店は、JCVとの連携により、被災地支援を継続して行っています。

さくらパンダが被災地の子どもたちを訪問

大丸、松坂屋各店では、2012年3月1日から「さくらパンダ」のチャリティ・ピンバッジの販売を行い、店頭で募金を呼びかけるとともに、被災地の子どもたちへの応援メッセージを募集。ピンバッジは用意した1万個が完売し、店頭募金と合わせて1,042,190円をJCV子どもの笑顔プロジェクトに寄付しました。また、寄せられた600通を超える応援メッセージは、さくらパンダが東北被災地の児童館を訪れ、子どもたちに直接手渡しました。



切り絵の世界的アーティスト"ロブ・ライアン"とコラボした被災地チャリティの実施

大丸、松坂屋の2011年クリスマスギフトラッピングのデザインを手がけたロブ・ライアン氏が、東北の子どもたち支援のために12月に来日。大丸東京店を皮切りに、大丸心斎橋店、大丸京都店、大丸神戸店、松坂屋名古屋店でサイン会、トークショーを開催しました。また、ロブ・ライアン氏デザインのピンバッジや有料ラッピングも用意。これら売上金の一部およびロブ・ライアン氏が大丸・松坂屋のクリスマスのために制作した原画をオークションで販売した対価(合計1,757,530円)を東日本大震災被災地支援「JCV子どもの笑顔プロジェクト (Kids Smile Project)」を通じて、被災地の子どもたちの元気につながる活動に寄付しました。



Rob Ryan氏